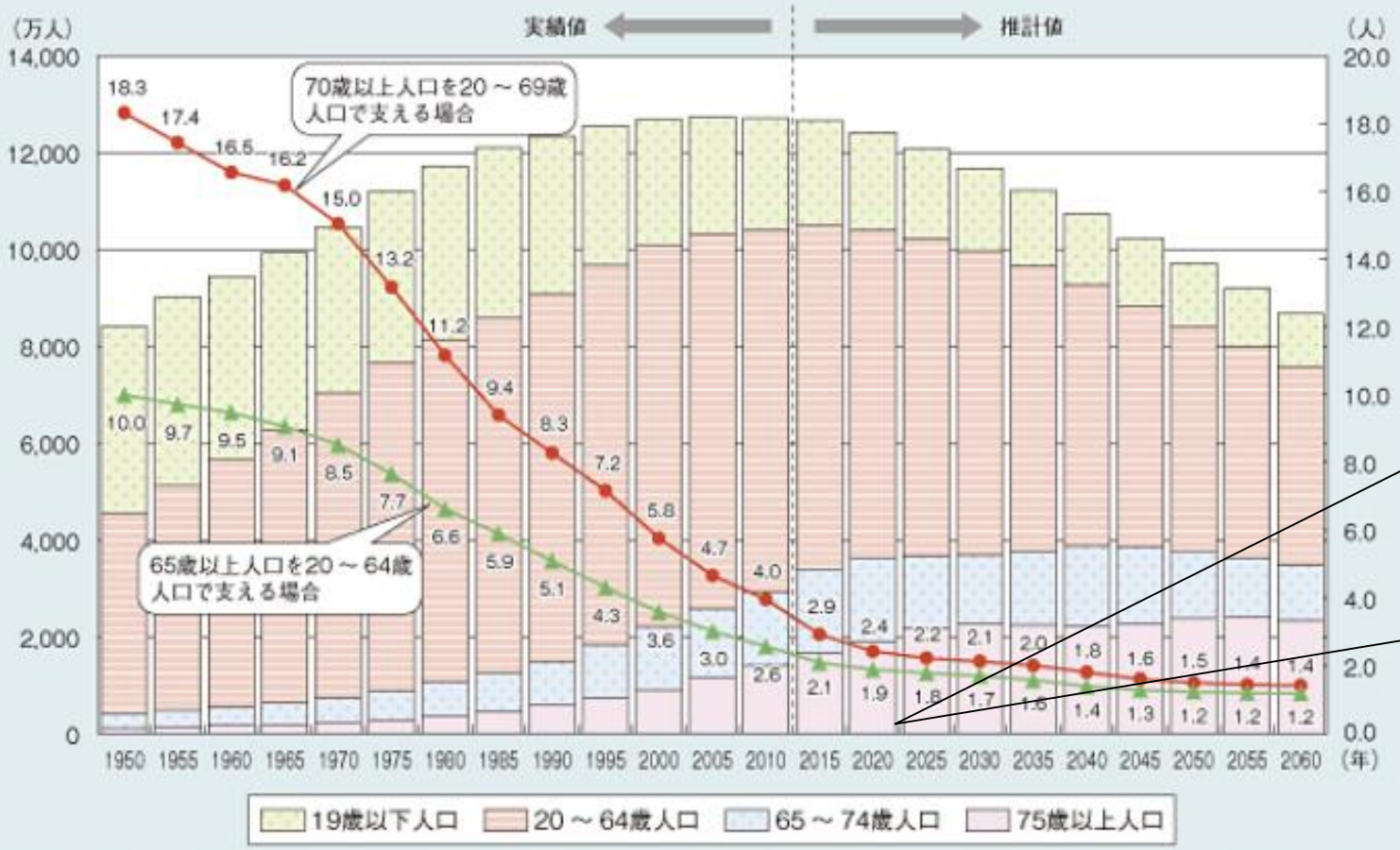
奈良県の未来を担う子ども達の育成

早稲田大学
本田　恵子

これからの人口比率はどうなる？

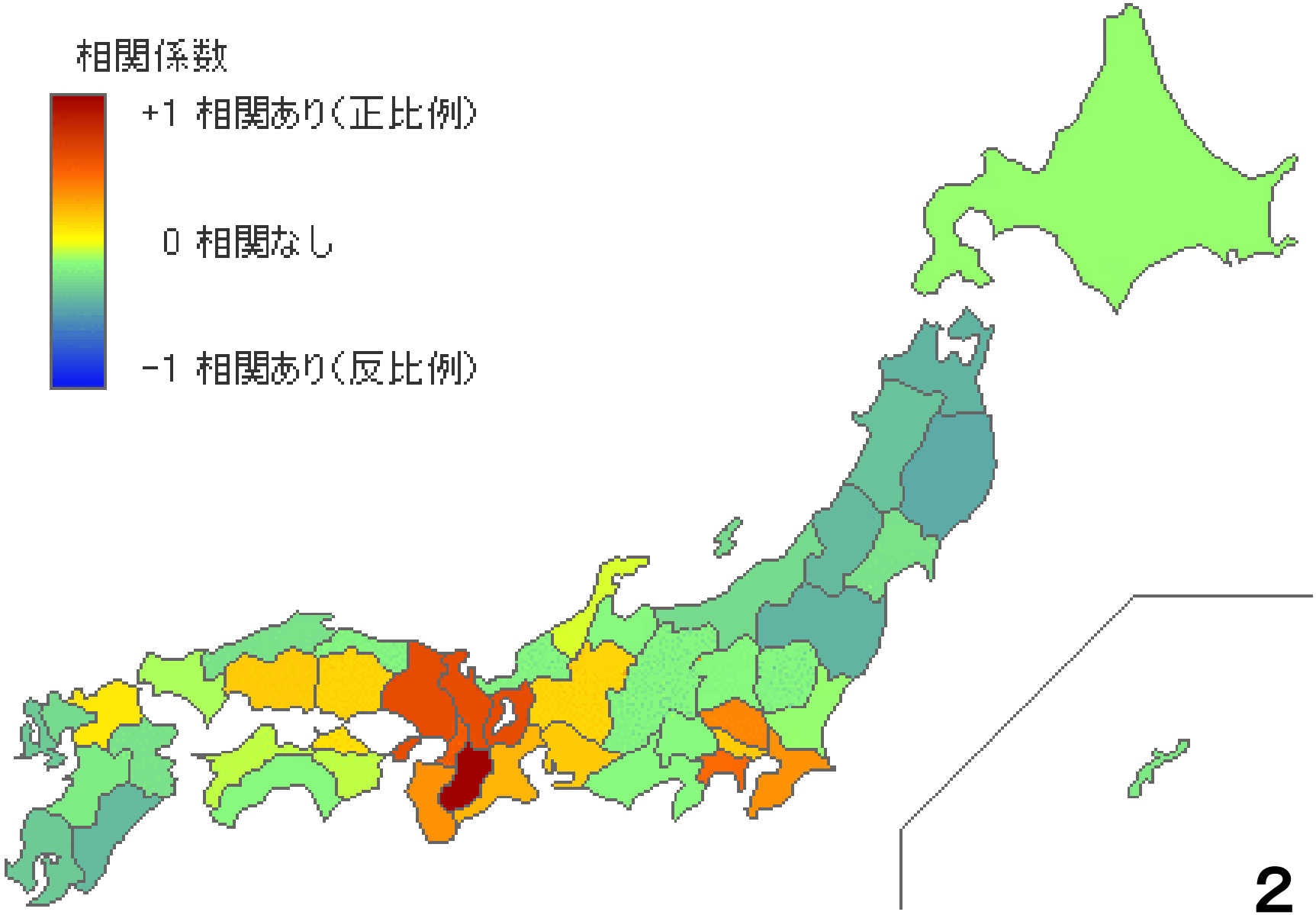
図1－1－6　高齢世代人口の比率



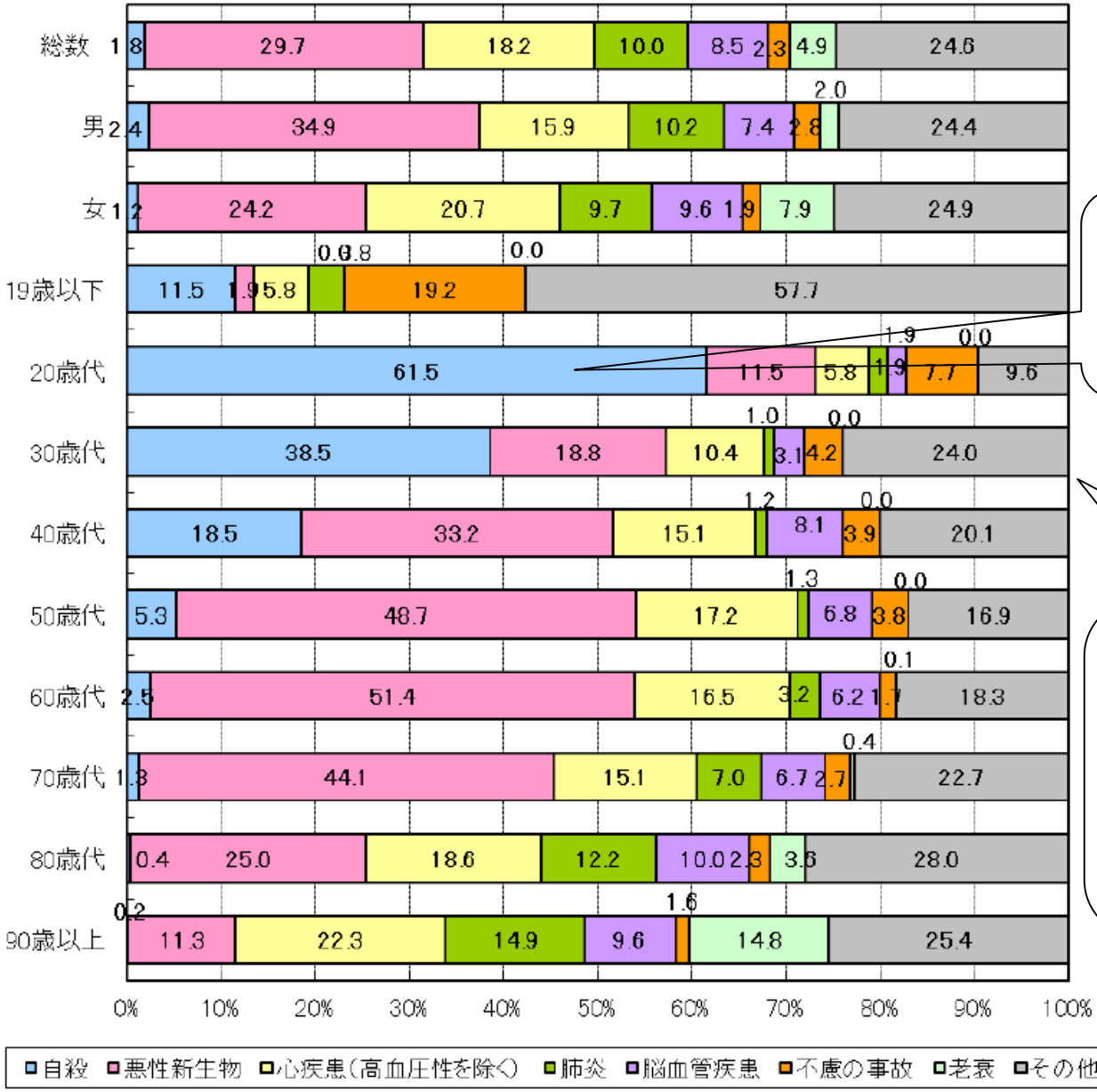
資料：2010年までは総務省「国勢調査」、2015年以降は国立社会保障・人口問題研究所「将来推計人口（平成24年1月推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果

20年後には、65歳以上を若者（20-64歳）1･5人で支える必要あり

奈良県と類似した都道府県



各年齢層の死亡原因



自殺

20～30代死亡
原因の第一位が　自殺

社会の中堅になる若者の自死が多いのはなぜか

若年の無業者の割合

全国平均を上回る　全国8位

3年以内の　離職率、　近畿で最も高い

高卒　約48％、　大卒　約38％

質問1　：　奈良県には仕事がない？

仕事をしない若者が多い？

質問2　：　無業者と不登校の関係は？

質問3　：　無業者と非行の関係は？

質問4　：　無業者と若年自殺者の関係は？

期待される未来の子ども像

1）　多様化する社会（格差、人種、障害等）
　　において
　　自立と共生ができる子ども

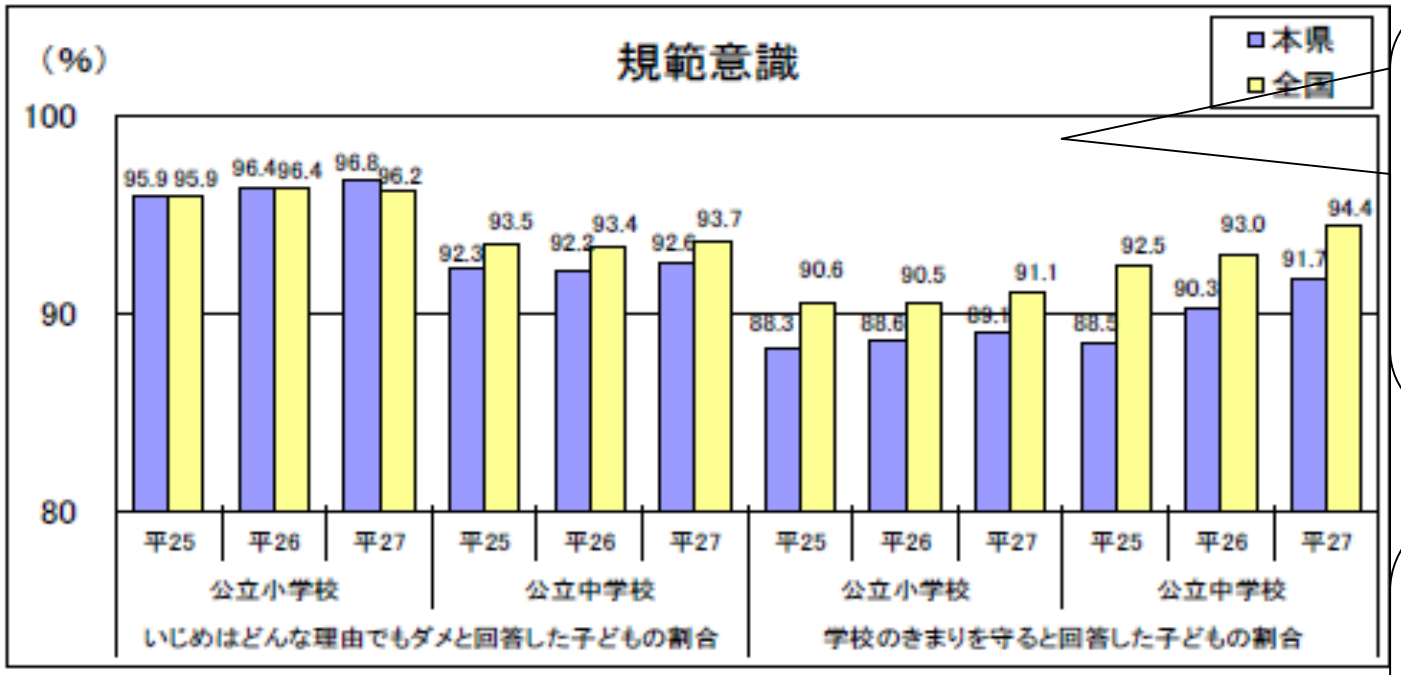
2）　そのためには、
　・共感性に富み（他者の痛みが分かる）、
　・判断力に優れ
　　（状況判断するための材料を集め、
　　様々なパターンで考える力がある）、
　　問題を解決する方法を持っている事が
　　必要

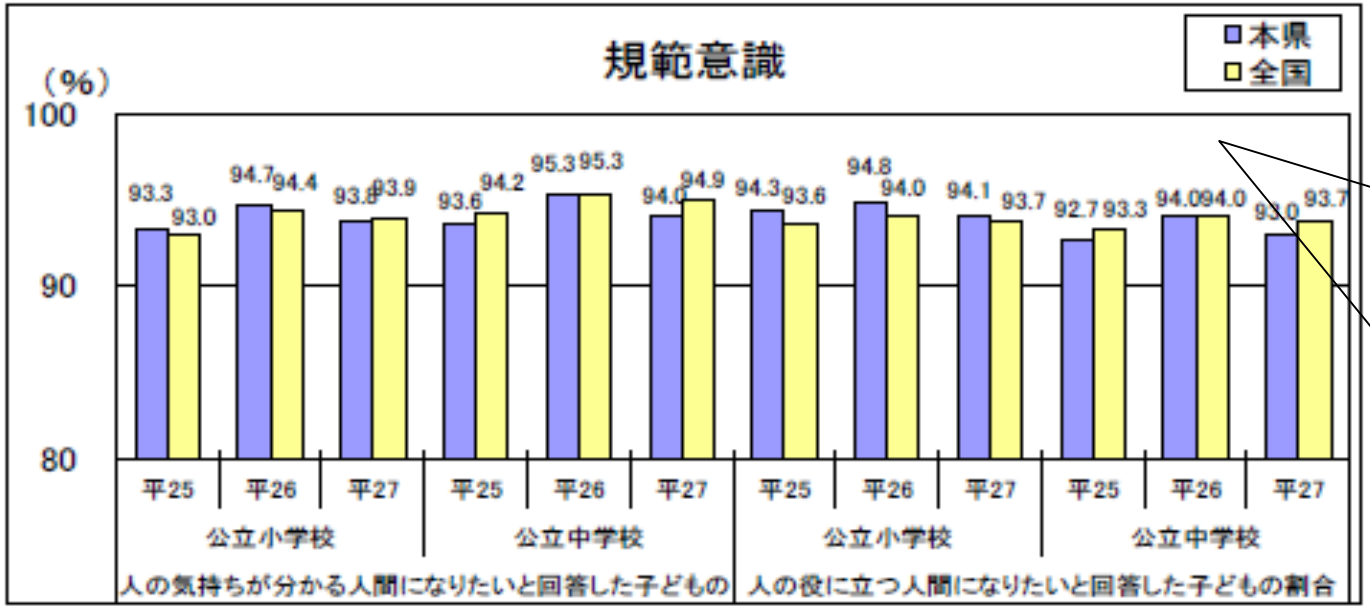
奈良県の子どもの現状

奈良県の教育データ集　Ｈ　27年度版より

１　規範意識
２　非社会的行動（不登校、自死）
３　反社会的行動（暴力、いじめ、非行）
４　学力
５　家庭の課題（虐待）

1　規範意識の現状

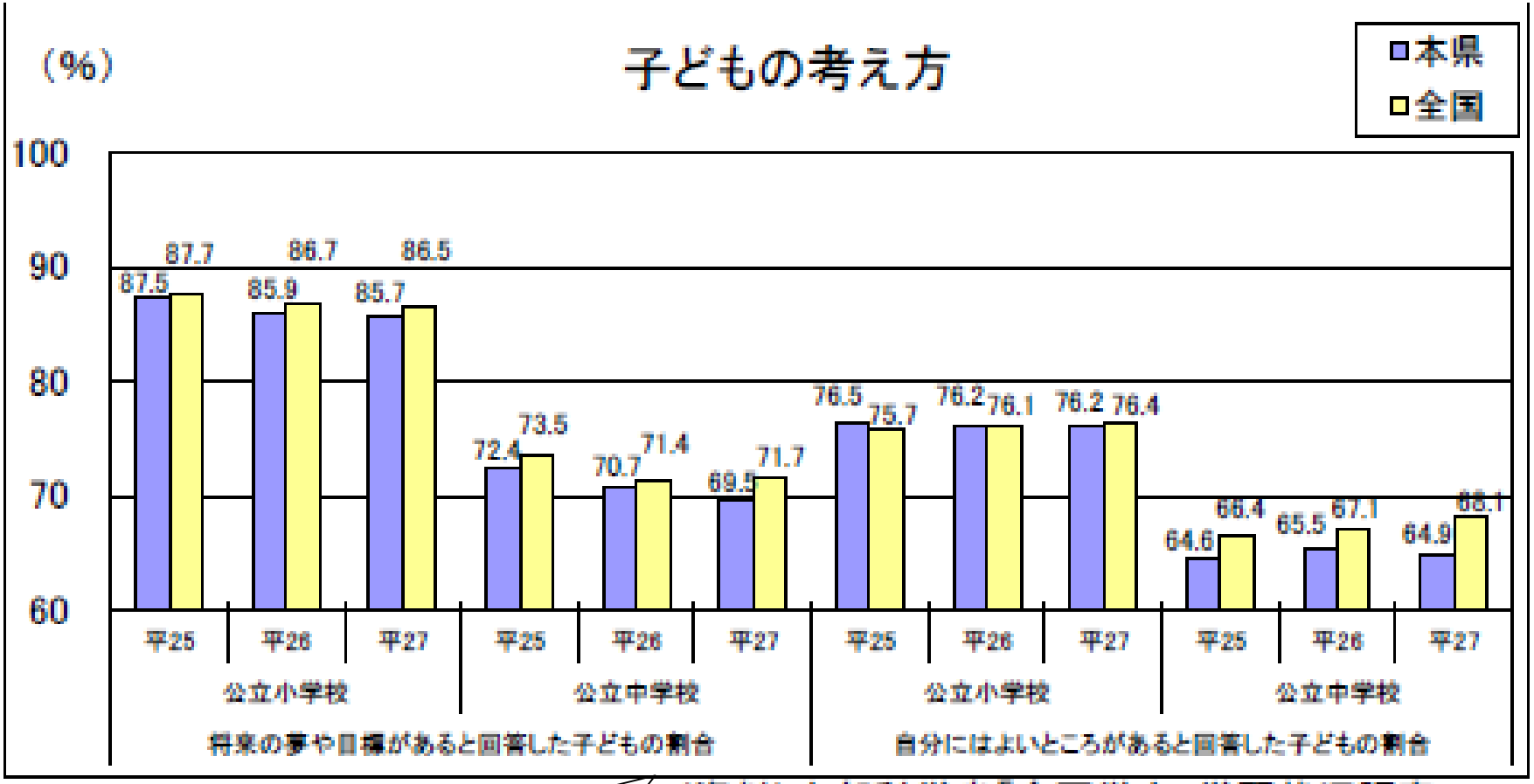




規範意識は少しずつ上がっているが、全国より低いままなのは、なぜか？

人の役に立ちたいと思っている子どもが9割もいるのに、自尊心が低いと、どうなるのか？

中学生は将来の夢や目標がない
自尊心が低い



更新：H27.12

（資料）文部科学省「全国学力・学習状況調査」

中学校教育に何が起こっているのか？

２　非社会的な行動の現状

※不登校が多い

小学校の長期欠席者　817名（56名増）

内、不登校が353名　奈良48%、　全国39%

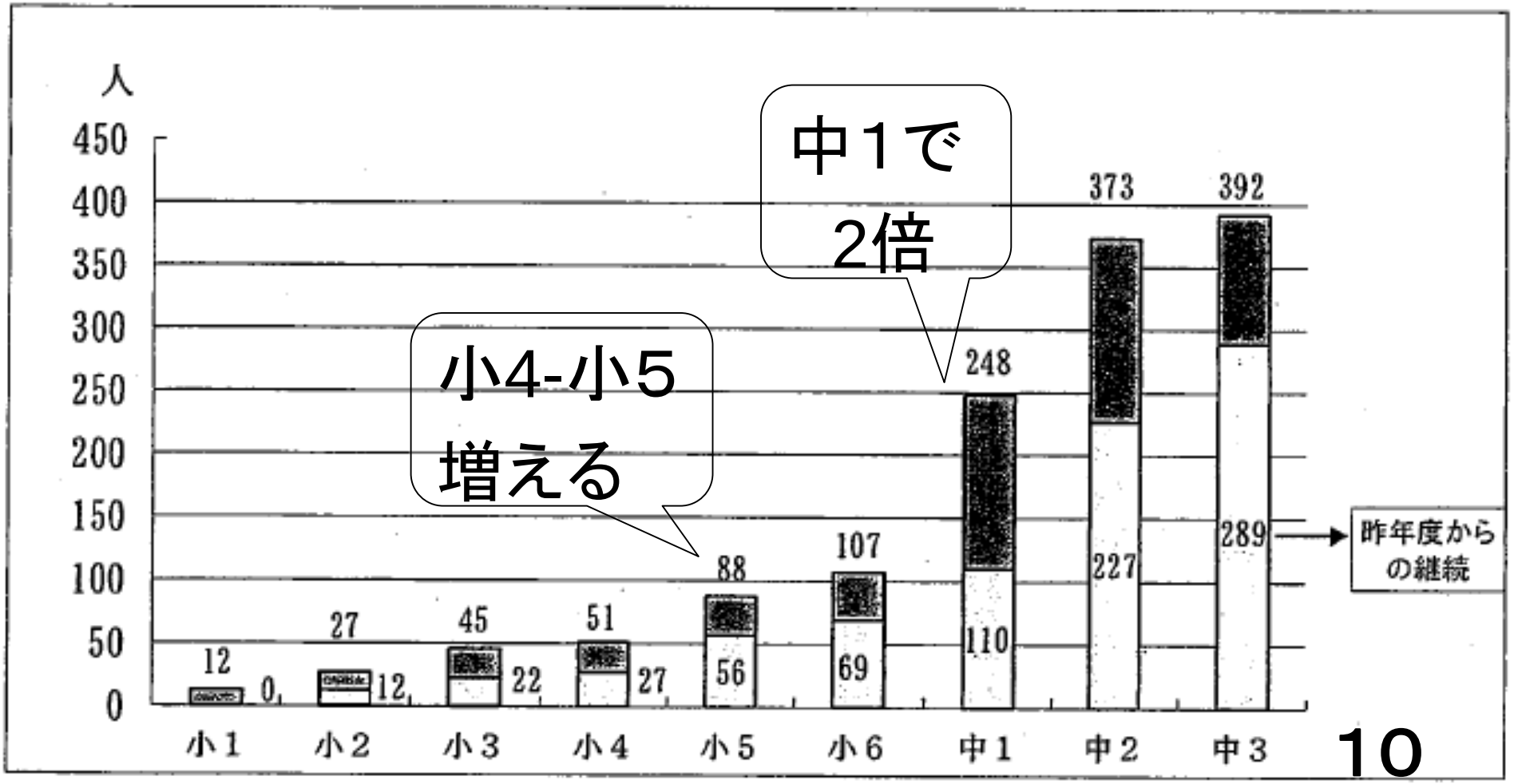
質問1：　長期欠席者のうち、不登校の割合が大きいのは何が要因か？（原因をしっかり調べていない）

質問2：　不登校児童生徒が学校に戻れないのは、何が要因か？（復帰のプログラムの不足、教室に戻れる土壌が育っていない）

非社会的行動（不登校）の課題　H27奈良

3　奈良県の公立小学校・中学校における不登校児童生徒の状況等

(1) 学年別不登校児童生徒数



不登校の要因

１）小学校　：家庭の問題（61.5%）、
　　友人関係（14.2%）、学業不振（13.3%）
２）中学校　：家庭の問題（39.3%）、
　　友人関係（24.3%）、学業不振（13.5%）
３）高等学校：入学時の不適応（25.3%）、
　　家庭の問題（23.5%）、
　　学業不振（18.2%）、友人関係（18.2%）

非社会的行動からわかる子どもの状態

１）　家庭の教育力の低下への対応が必要

２）　社会性の低下への対応が必要

（新しい環境になじみにくい）

小学校から中学校への変化

高校への変化等

３）　学業不振への対応が必要

小学校4年生から5年生

中学校1年生から2年生

３　反社会的行動の課題　　H27　奈良

１　暴力行為（対教師暴力、生徒間、器物損壊）

1000人あたり　2.7件　（0.3ポイント増）

全国は、　4.2件のため全国よりは低い

２　いじめ

認知件数は、H26年度よりも2859件増

小学校　2,712件　（2,058件増）

中学校　1,274件　（689件増）

高校　　247件　（112件増）

加害者：同じ学級　小77.5%、中65.7%、高55.9%

先輩　　小10.1%、中　7.4%、高13.6%

① いじめの内容

―からかい、遊びの延長、仲間はずれ―

小 学 校	①「冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」	67.3%
	②「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする」	18.6%
	③「仲間はずれ、集団による無視をされる」	13.5%
中 学 校	①「冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」	65.7%
	②「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする」	17.3%
	③「仲間はずれ、集団による無視をされる」	12.8%
高等学校	①「冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」	66.7%
	②「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする」	20.0%
	③「仲間はずれ、集団による無視をされる」	18.6%

② 少年非行 （H27）

総数 600名 （ 23名減少）

刑法犯 365名 （中 134名、 高校135名）

★ 初発型が多い

特別法犯（火器、凶器、23名 薬物3名）

触法少年（14歳未満で 刑法に触れる行為）164名

再犯率が高水準 34.3%（H28 上半期）

反社会的行動からわかる
子どもの課題　その1

１）　ストレス耐性が低い

　　自分の気持ちや欲求がわかっていない

　　自分の気持ちや欲求がかなわないときの

　　ストレスマネジメントが不足

２）　遊びといじめ、暴力の境界があいまい

　★　規範意識の低さと関連性がある

３）　課題解決力が不足

　　相手と話し合って、解決するスキルが不足

反社会的行動からわかる
子どもの課題　その２

１）　将来の夢や目標がない子ども（中学生）、
　　及び自尊心が低い子どもへの対応が必要

２）　家庭における心理的な虐待への対応
　　⇒自尊心を傷つけられているため、学校で
　　いじめやからかいとして出やすい

３）　家庭での教育を支援することが必要
　　⇒話し合いで問題を解決する練習が不足
　　⇒友だちとのトラブルを話し合いで解決でき
　　ない

４　学力 ～子どもの考える力の現状～

（H27）

①　1教員あたり　小学校14.7人、中学校14.7人

②　学力

1）　A問題（基礎）は平均以上

小：　国語（+.5%）、算数（+.3%）

中：　国語（+.4%）、数学（+.9%）

2）　B問題（思考力・応用）・理科は平均以下

小：　国語（-.7%）、算数（-.2%）、理科（-.8%）

中：　国語（-.7%）、数学（+.1%）、理科（-1.5%）

学力からわかる子どもの状態

コツコツ、言われたこと、習ったことを記憶し再生する、受動的な子どもが多い

自分で考え、解決策を導く力が弱い子どもが多い

障がい者への対応

特別支援学校の在籍者が増加している

１６１０名 （３８名増）

質問： 支援学校の在籍者が増えているのは、何が要因か？

（＋）支援学校の教育内容が良くなったから？
障がいに対する理解が進んだから？

（－）児童生徒が、通常学級にいられなくなったから？

学力と学級規模の関係
―山形県の全県調査の結果―

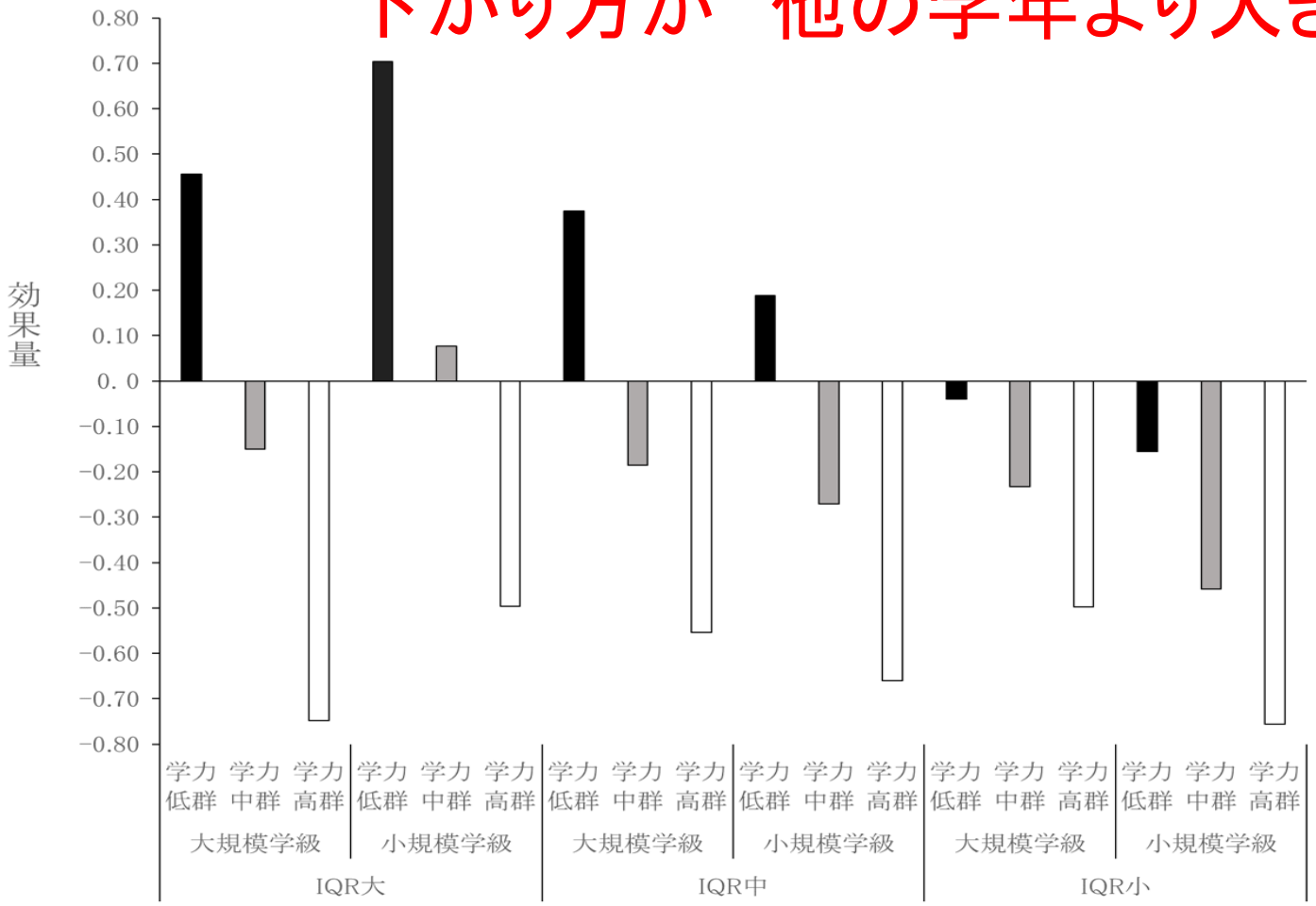
山形県において、継続的に学力調査を行った。国語の学力について、小学校2年から6年までの結果を比較した。

綱川　貴（2017）　早稲田大学修士論文
本田恵子　指導

小2から小3

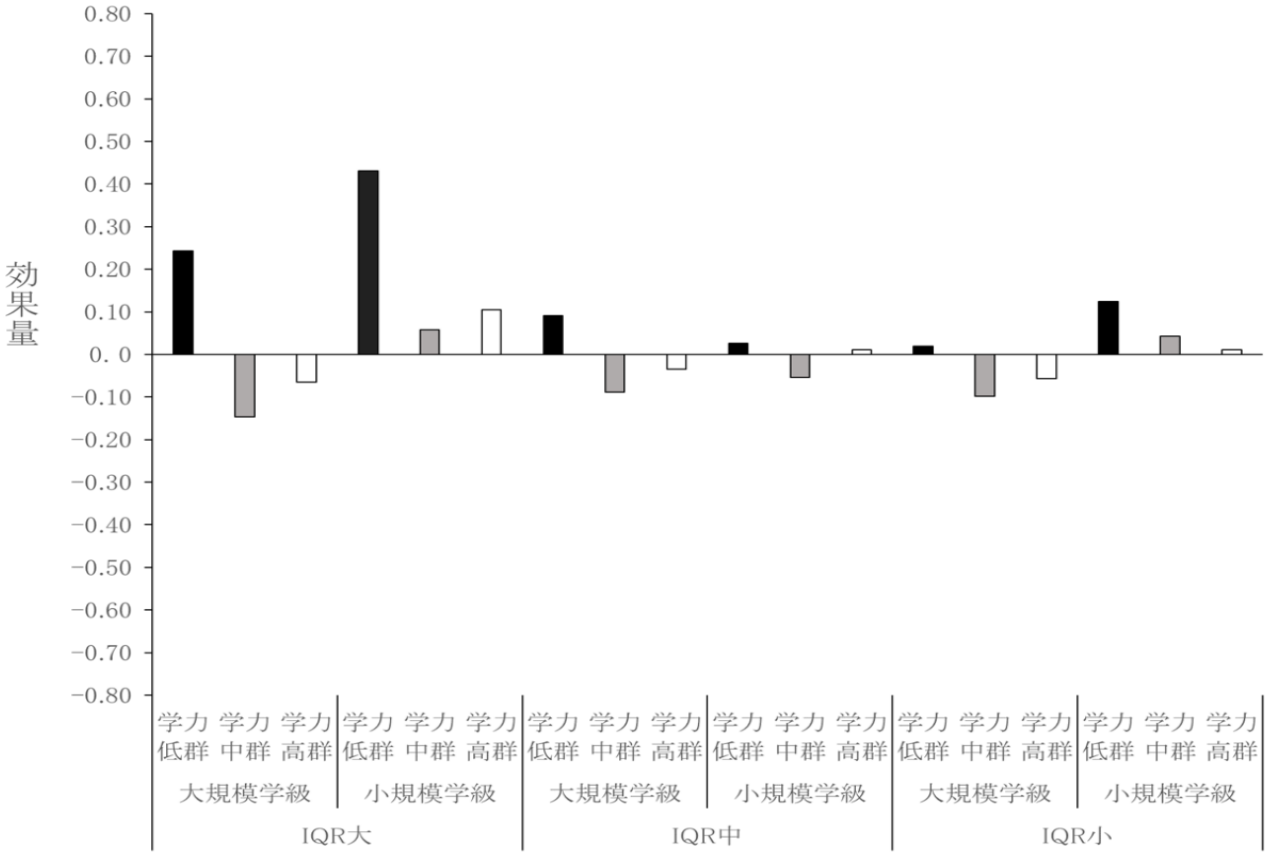
1）学力低位層は、多様性が少なくなると学力が下がる
2）学力中位層・上位層はどの学級でも下がる

下がり方が　他の学年より大きい



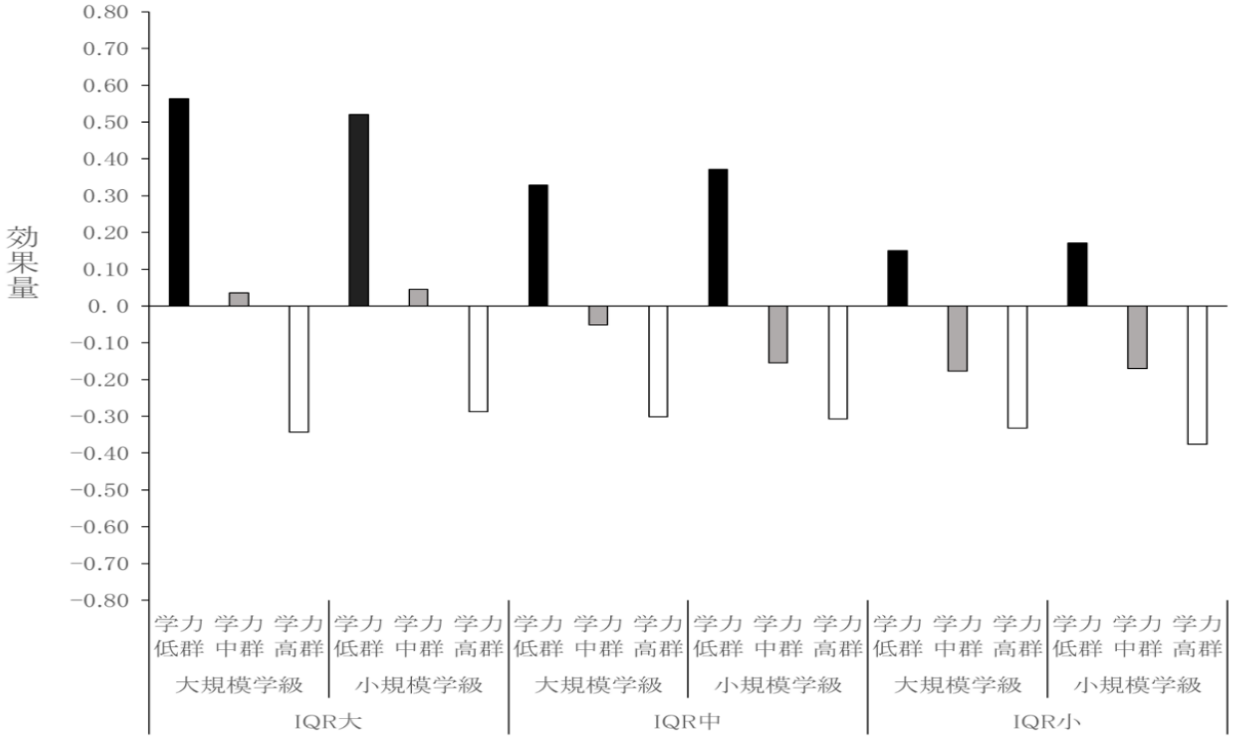
小3から小4

どの学力層も小規模学級では学力が上がる
多様性が高い小規模学級の効果が高い



小4から小5

1）学力が低い子どもは、どの学級も上がる（教員が個別指導？）
2）学力注意の子どもは、多様性が下がるほど学力の下がり方が激しい（学級の影響を受けやすい？）
3）学力上位層の子どもは、どの学級でも下がり方は同じ（自分で勉強しているからか？）



山形県の調査結果から考察される学級規模、構成、教員の教え方の特徴等に対する提言

1） 教員は「できていない子」に個別指導をする
➡ 学力低位層は、学力を向上させている

2） 中間層や上位層には、指導が行き届いていない可能性がある ➡ 学力が下がっている

3） 上位層は、高学年になると自分で学習して学力の低下を抑えるが、中位層は学級規模や多様性に影響を受けやすい

4） 小学校3～4年生では、小規模学級が学力向上には望ましい

これまでの対応における問題点

１　事件・事故が生じてからの後手の対応

２　対応するための、見立て力の不足

（データ収集力：何を集めたらいいか・ツール・データの読み取り力の不足）

３　共感性の不足（現場の教員）

４　課題解決力・具体的スキルの不足

５　委員会や会議の運営力・スキルの不足

（報告会になっており、検討会になっていない）

６　同じ問題が繰り返されている

（使えるマニュアルになっていない）

今後の対策で必要な内容

１　包括的なシステムを構築する

１）　アセスメントのシステム

⇒情報収集・ツール・報告・見立て

２）　課題が生じたときの実践的マニュアル

⇒課題別対応事例・現場での対応問答集

３）　報告・連携（学校・市町村教委・県教委）の包括システム・人員の配置

２　人を育てる　①

１）　現場教員の力量アップ

①　見立て力をつける（知識の増強）

②　共感性を育てる

③　実践力を育てる

２）　専門の職員の配置

アセスメント専門の職員（地区に配置）

スクールカウンセラー

（配置増とスーパーバイズシステムの構築）

特別支援コーディネータ、

発達障害に通じた校医、通級職員

２　人を育てる　②

３）　校長の力量アップ

①　リーダシップ力

（判断力、コミュニケート力、共感性）

②　マネジメント力

（将来を見越した目標の設定、

実現可能な計画、実践のためのスキル）

③　ファシリテート力

（職員の力量を見立て、引き出す力）

④　スーパーバイズ力

（職員のつまづきを見立て、助言する力）

３　教育委員会の課題

１）　包括的な研修システムの構築

・現在の研修内容の不備等、見直しの検討

・継続、連続性、深まりのある研修の計画

・具体的な実践・ワークショップ形式の研修の計画

・研修資料、ワーク集等　HPの整備

２）　教員養成大学等との連携、システムの構築

・教職大学院等との連携・教職員派遣

・優れた「指導主事」の育成

⇒連携力・包括的な知識と技能の育成

（現在は、自分の専門分野のみが多い）

これまでの奈良県との連携事業

早稲田大学　教育・総合科学学術院 教授　本田 恵子

平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
私立学校教育における規範意識の向上事業 文化・教育課	学校教育における規範意識の向上事業 教育振興課	公立学校における教員の指導力向上事業 教育委員会生徒指導支援室	「奈良県教育振興大綱」（案）に対する助言	児童生徒理解による問題行動等対応事業 教育委員会生徒指導支援室
アンガーマネジメントの手法やプログラムを活用した事業				
教員の資質向上研修事業				学校における危機管理体制の構築事業 教育委員会 教育政策推進室 教育振興課
			就学前教育事業	園児と高齢者の多世代交流による子どもの包括的な社会性の向上事業 教育振興課
	矯正教育事業 開始	県に臨時雇用した保護観察対象者の社会復帰円滑化事業 雇用労政課	県に臨時雇用した保護観察対象者の社会復帰円滑化事業 雇用労政課	継続中

平成28年度　「危機管理研修」の実績

（対象）　小・中・高校から　各10校ずつ30校参加
　　校長と中堅教員　2名一組で参加

（内容）

1）　危機の見立て方と介入についての理解

2）　不登校への見立てと具体的対応の研修

3）　いじめへの見立てと具体的対応の研修

4）　虐待への見立てと具体的対応の研修

5）　各学校において危機介入システム構築を実践

6）　2月25日　実践発表予定

1） アセスメント（個人）について

危機状況の見立てのチェックリスト

※ 関連する項目に○をつけてください。項目にない場合は、作成してください。

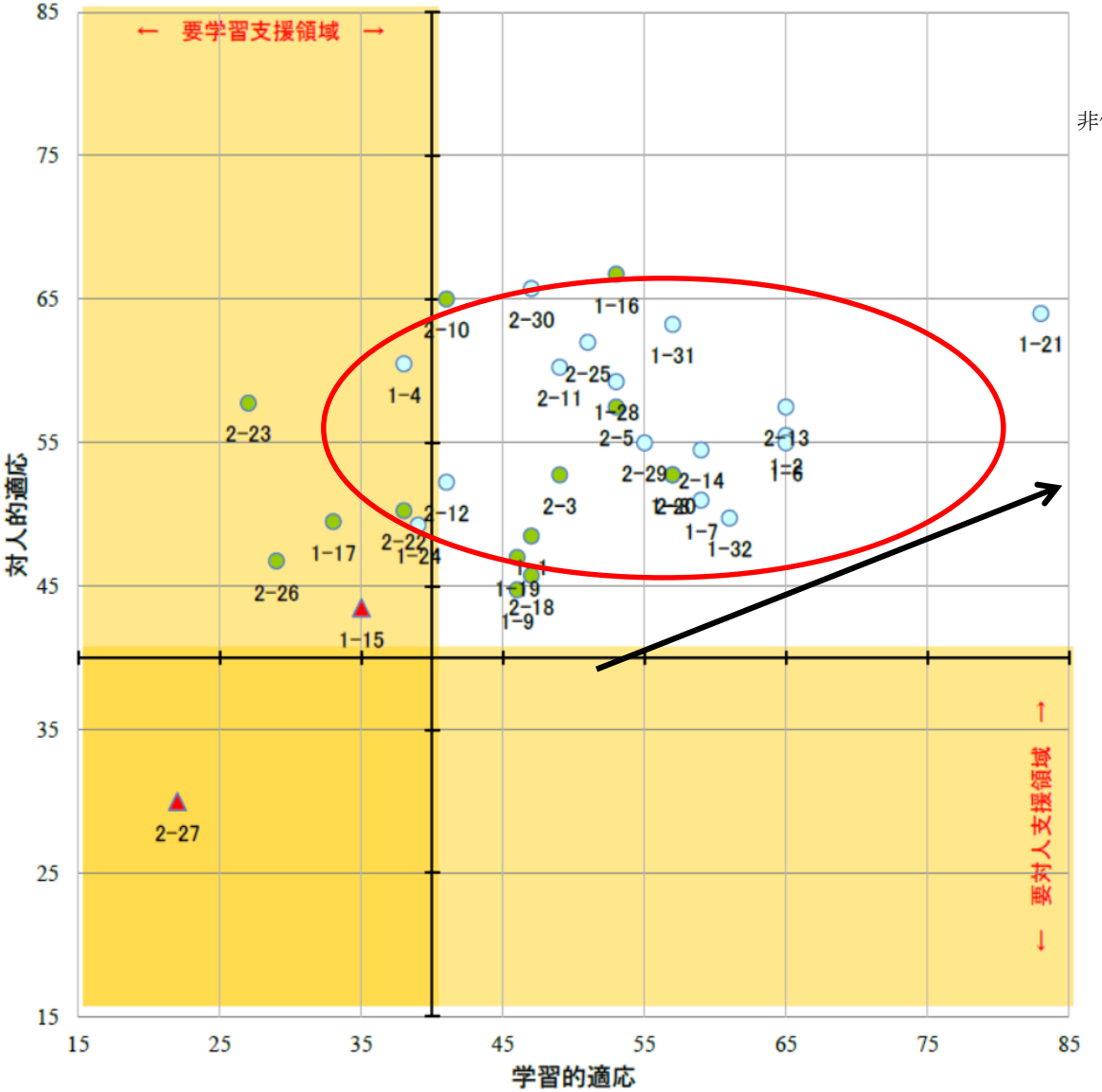
1 個人・関係者・学級

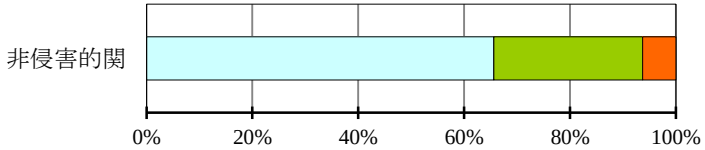
		大項目	小項目	○	具体的な困難の状態
学業・進路面	学業	発達障害	知的障害		軽度：IQ50-70（環境の構造化、指示を具体的に写真や絵で見せると理解できる、背景や見えていないことや気持ちなどは理解できない）
					IQ30-50 中度（介助があれば、ある程度の自立行動ができる。言語理解は3歳程度）
					IQ30未満 重度（全ての行動に介助が必要）
			学習障がい		読字障害：文字を判別するのに時間がかかる、音読が苦手
					書字障害：字は選べるが、書くのに困難。大きさや形が整わない、鏡字
					算数障害：計算ができない、図形の認知が苦手、文章題から図にならない
			言語障害		ことばの発達（聴覚言語）が遅い、語彙（理解言語・表現言語）が少ない、吃音
					表出性の言語障害（言いたいことがあっても言葉になりにくい）、
					受容性の言語障害）（相手が話していることが、わかりにくい）
			連合が悪い		見たものを言葉にする、言葉からイメージする等が弱い、何が伝えたいかわかりにくい
			ASD（自閉性スペクトラム障害）		こだわりが強い、切り替えに時間がかかる、納得したら正確に実践できる
					ことばの理解が一対一、独特の定義づけをする
			ADHD（注意欠陥多動性障害）		発想は豊か、いろいろなことを思いつく、考えが拡散する
					集中できる時間が短い 突然しゃべり出す、衝動的に行動に移す
					忘れものが多い、物事を最後までやり遂げるのが困難、面倒なことを嫌がる
			発達性協調運動障害		不器用、動作性LDとも言われる（言葉の指令が身体に伝わりにくい）
		学習意欲減退	意欲の減退		興味関心、自己の能力への自信喪失、学習への価値観、達成動機を失う
			怠学		学業に対して面倒がる、能力はあるが怠ける、授業中に寝る、さぼるなど
		学業不振	成績不振		能力に比べて、学業の達成度が低い状態
			提出物を出せない		宿題はわかっていても、何をしたらいいかわからない
			単位不足		進級に必要な単位が獲得できていない
	進路	意欲減退	進学・就労への意欲減退		進学や就労への意欲が減退、将来への希望が持てない
		進路選択の困難	適する学校・仕事が見つからない		やりたい事はあるが、実現できる場所が見つからない
					やりたいことがみつからない、わからない
		進路不適応	就学相談の不備、特別支援システムの不備・不足		就学相談が機能していない、保護者が活用しない、決定が二転三転する
					学級内補助、学内通級等の不足
			進路の不適合		自分の期待と学校が異なっていた
		就労困難	就職先がない		就職試験、面接に不合格が続く
	その他				

		大項目	小項目	○	具体的な困難の状態
身体・健康面	身体面	怪我	怪我		様々な身体部位に怪我がある
		身体障害	協調運動障害		言語指令が身体に伝わるのに時間がかかる、身体が緊張して突っ張った感じ
					手先が不器用、体の動きがぎこちない、動作の模倣がしにくい、体育が苦手
			肢体不自由		障害認定による肢体不自由がある
			視覚の異常		視力、色覚、乱視等の視覚に異常がある、視機能が未熟
			聴覚の異常		聴力、きこえの状態に異常がある
			感覚過敏		音、熱、触覚等、様々な刺激に過敏に反応する
		疾病			循環器、呼吸器、消化器、解毒等の様々な疾患
		心身症			元々は、身体疾患があり、心理的な要因でその症状が強化されている状態
					起立性調節障害、円形脱毛
		アトピー			アトピー性皮膚炎
		アレルギー			食物、植物、薬品等のアレルギー
	健康面	栄養の問題	栄養失調		栄養状態が悪い
			食生活の不備		家庭での食生活が不備、食事時間が不規則、不適切
			食の異常		過食、拒食、異食等
		睡眠			過眠、寝つきが悪い、不眠、悪夢、早朝覚醒、過覚醒等　睡眠状態に異常がある
		衛生管理			入浴、歯磨き、手洗い、服装等、衛生状況が悪い
	その他				
心理・社会面	反社会的行動	暴力・暴言	対物		物にあたる、壊す、投げるなど　ものに対して暴言・暴力行為を行う
			対教師		教職員に対して、暴言、なぐる、ける、唾を吐くなど暴力行為を行う
			対友人		クラスメイト、上級生、下級生等に叩く、けるなど暴力行為を行う
			その他		
		いじめ	悪口・ハラスメント		Line、ツイッター等のSNS上に悪口や本人が載せてほしくない写真等をアップする
					直接、間接に悪口・からかいを言う
			暴行		単独、集団で一方的に暴力を長時間振るう
			いやがらせ		ものを隠す、捨てる、いたずらをする、嫌なものを置く、異なる連絡を入れる等
			無視・排除		無視、仲間はずれ、
			犯罪型いじめ		恐喝、パシリ、犯罪（窃盗、詐欺等）の強要等
			その他		
		非行・犯罪	徘徊・プチ家出、家出		深夜徘徊、友人宅に泊まり込む、
			窃盗		万引き、窃盗（学内、学外）
			DV		デートDVの加害・被害
			性的逸脱		青少年条例違反（性的逸脱行為）
			性的犯罪		痴漢、わいせつ、強姦　等
			薬物		シンナー、大麻、違法ドラッグ、覚せい剤等の販売、使用
			その他		

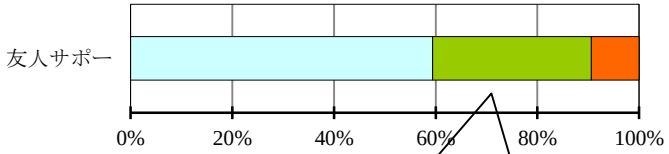
		大項目	小項目	O	具体的な困難の状態
心理・社会面	非社会的行動	不登校	孤立		友だちが少ない、いない
			遅刻		遅刻、欠時がある、増えてきた
			登校しぶり		学校に来たがらない
			長期欠席		20日以上の断続的な欠席がある
			ひきこもり		自室にこもり他者との交流をしない
			その他		
		依存	携帯・ネット依存		スマホ、PCなどを常に触っている。
			ゲーム		
			DV		
			薬物		
			その他		
		自傷	自分の心身を傷つける		自分の身体を傷つける、自分を殴る・つねる、抜毛、リストカット等
			その他		
		その他			
家族の問題	虐待	虐待	身体的虐待		叩く、ける、屋外放置、過度な家事、体罰(たばこの火を押し付ける)など
			心理的虐待		子どもの自尊心を傷つける言葉を言い続ける、子どもを否定する、無視、拒否する等
			性的虐待		入浴時の過度な身体接触、行為を見せる、させる等
			ネグレクト		子どもを置いて遊びに行く、ゴミ屋敷、食事を与えない、衛生管理をしない等
	家族関係	子どもの教育への関わり方	教育を受けさせる責任を果たしていない		就学相談、発達障害、学習へのつまづき、持ち物を整えるなど、親として子どもに教育を受けさせる責任についての理解ができていない
			過干渉、過保護		子どもの話題をネタに自分が学校と関わろうとする
		家族関係	家族の不和		家庭内別居、喧嘩が絶えない、
					兄弟、姉妹に問題行動がある(不登校、非行、暴力等)
			機能不全		親が子どもに依存している状態(子どもが、親の役割をしている)
			一人親家庭		母子家庭、父子家庭等で、親の負担が大きい
	疾病	障害	保護者の障害		身体障害(知的、肢体不自由、聴覚、視覚)等、認知症等、保護者に介護が必要
		疾病	保護者の疾病		癌、糖尿、リュウマチ等　継続治療が必要な疾病がある
			保護者の精神疾患		うつ、統合失調等の精神的な疾病、不安障害、人格障害領域等　連携が困難
	経済	経済的困窮	経済的自立が困難		生活保護世帯、
			不意の経済破たん		失業、借金等で子どもの教育費、養育費が不足状態
	相談機関との関係		専門機関への受診拒否		医療(精神、身体、発達障がい等)、教育相談機関、警察等への相談を拒否する
			その他		

アンガーマネジメント実践小学校
ーASSESS：対人適応：全体が平均ー





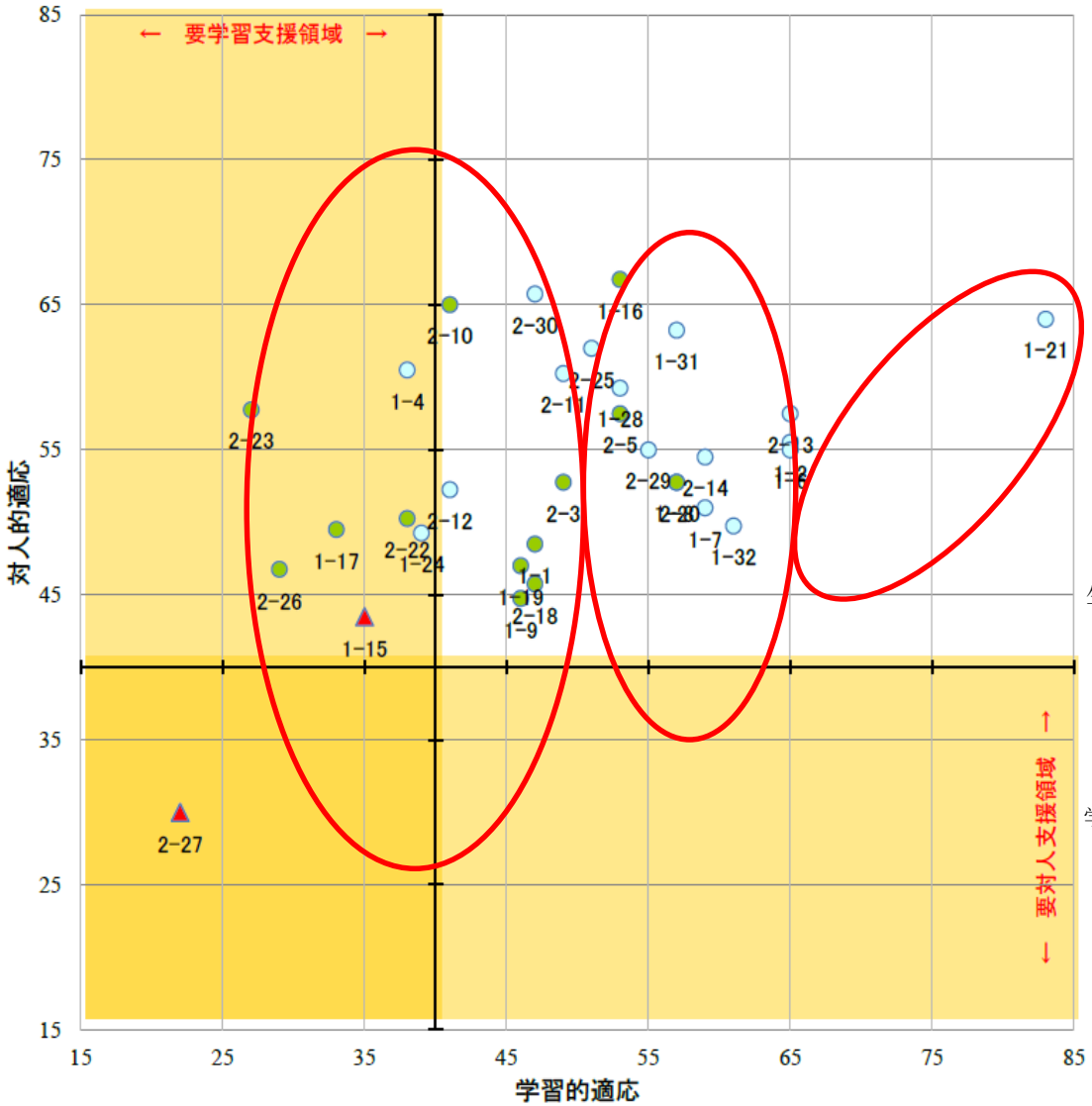
陰口、からかわれるが3分の1いる

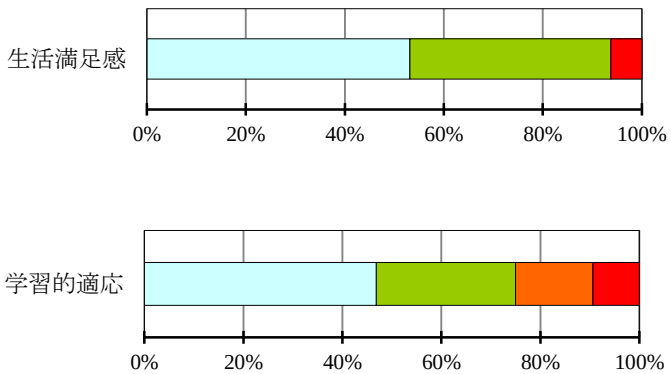


「友だちが助けてくれる」は半分程度。「本当の気持ちが打ち明けられない」は4割

学習適応

―下位層が約半数・生活適応も低い―





アンガーマネージメント
６回の実践

小学校　指定校2校　1回　90分（2コマ）を　6回
中学校　指定校2校　1回　５０分（1コマ）を　6回
　他に自主的に実践した学校　１０校

事前事後でアセスメント
　ASSESS（対人適応と学習適応）
　PFスタディ（ストレスの発散方法の理解）

実践内容

	テーマ	理解	スキル練習
第1課程	思春期の心と身体	自分の身体、心、人間関係がどう変化するか	ストレスマネージメント
第2課程	自分の行動パターンに気づく	どういう刺激でどういう行動をするか、その時の気持ちと状況判断 「自分の行動」と」「相手の行動」に分ける	行動を一連の流れで整理する（振り返り） 「なっとくのりくつ」 「セルフトーク」
第3課程	自己理解と自己受容	自分らしさや自分の特性を理解し、セルフスティームを理解する	「セルフトーク」
第4課程	問題解決1 自己表現	「自分が誰に、何を伝えたいか」を理解して、表現する	「私メッセージ」で 気持ちと状況を 伝える
第5課程	問題解決2 他者理解	「相手がどんな気持ちで、何を伝えたいか」を理解して、受容する	「話をさえぎらずに聴く」「待つ」

1回目：高学年　「友だちにからかわれた」

Aさんは苦手な粘土づくりに取り組んでいます。

怒って、作品を壊してしまいます。

（なっとくのりくつ）
今は、授業中
いまは、がまんだ。

（ストレスマネージメント）
・タイムアウト
・深呼吸
（行動）
・やりすごす

小学生用
発達障害のある
児童生徒用
Dプログラム

読んでいた小説が面白いところに来た。
でも、授業が始まって。プリントを後ろに回さないといけない。

今は、授業中
本は、なくならないよ

なっとくの
りくつ

先生に「わかった」と
サインをして、
いつ読んだらいいの
かを質問する

ソーシャル
スキル

中学生
友だち同士のトラブルを解決する

この場面どうする？　27

シートの使い方

①出来事に対して、望ましい結果を考えます。自分はどうなりたい、相手はどうなってほしい。
②そのために、何ができるかを、ストレスマネージメント・セルフトーク・ソーシャルスキル（具体的な言葉と行動）を考えます。

できごと

部活動と宿題で疲れているのに、友だちがちょっかいをかけてくる

②望ましい結果にするために自分ができること

ストレスマネージメント

- □ その場で目をつぶる
- □ こぶしを握ってすとんと落とす
- □ 深呼吸
- □ その他
- □ タイムアウトをとる

セルフトーク なっとくのりくつ

「気持ちは伝えないと相手に伝わらないよ」

ソーシャルスキル

気持ちと状況を伝える。
遊びを断る。

①望ましい結果

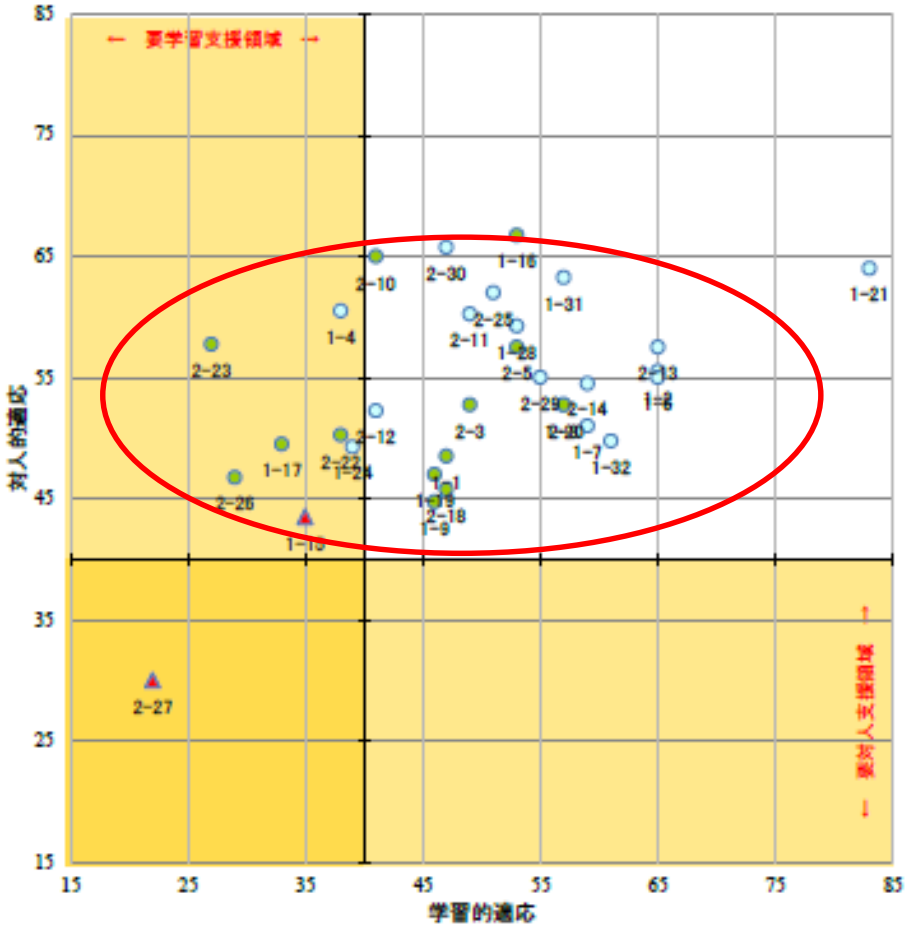
自分

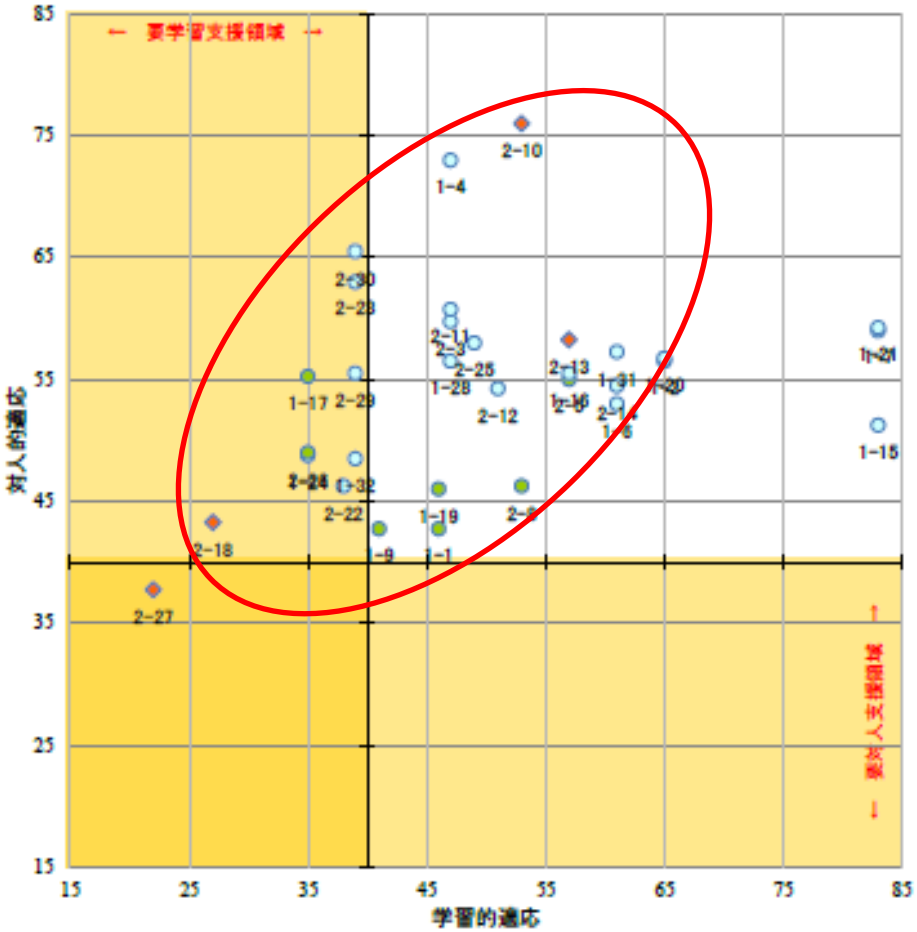
宿題と部活動で疲れてることを伝える

相手

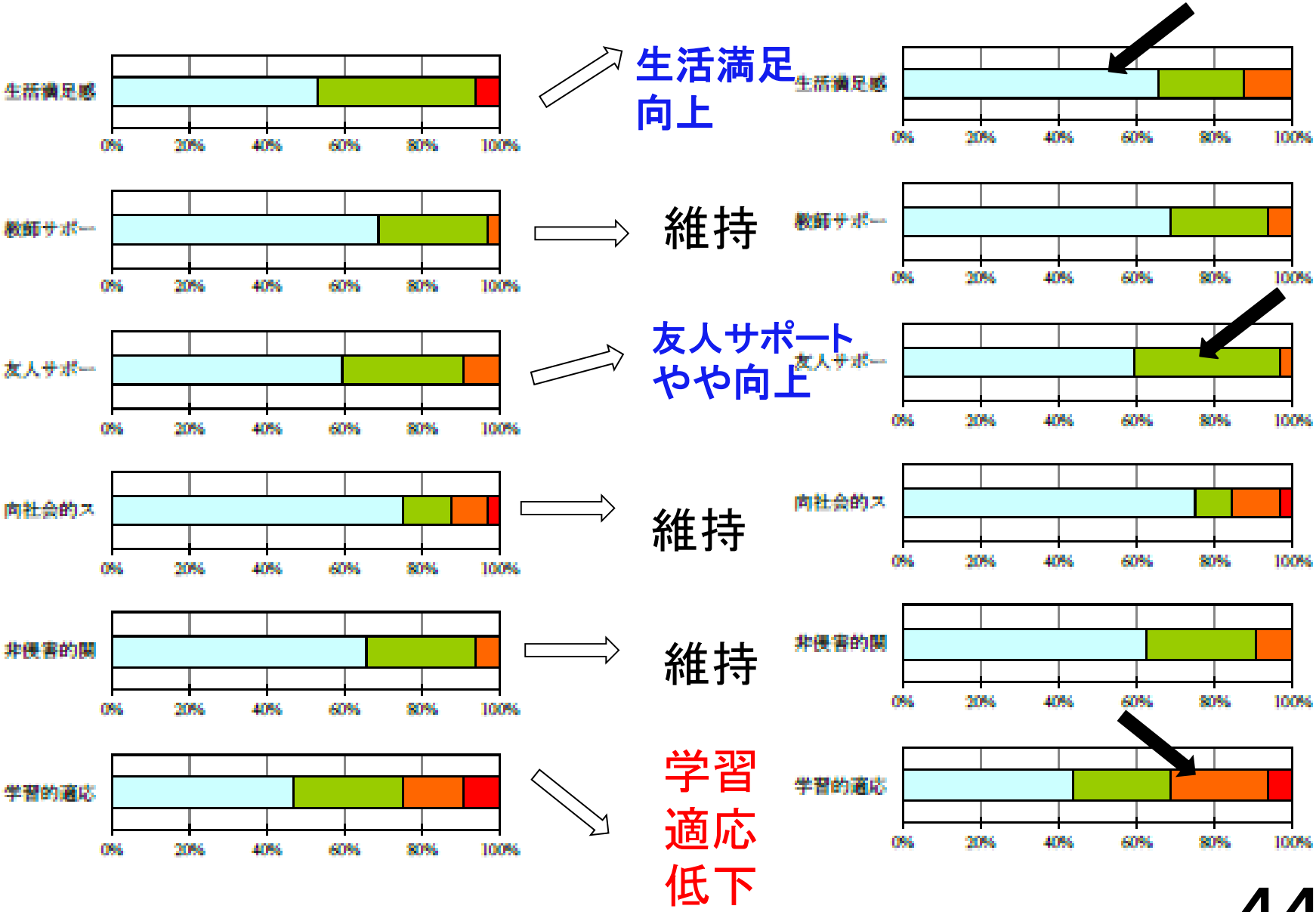
相手がそっとしておいてくれる

事前事後の変化
―対人適応が向上―

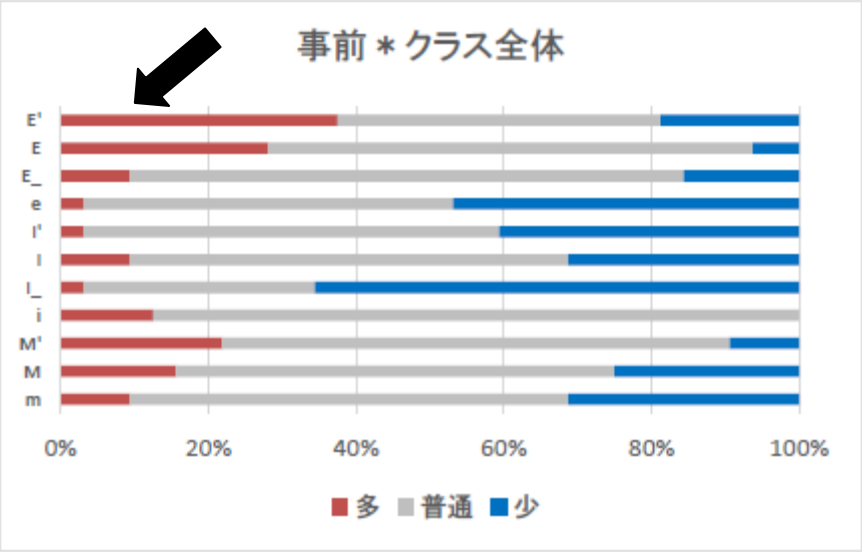




事前事後の比較

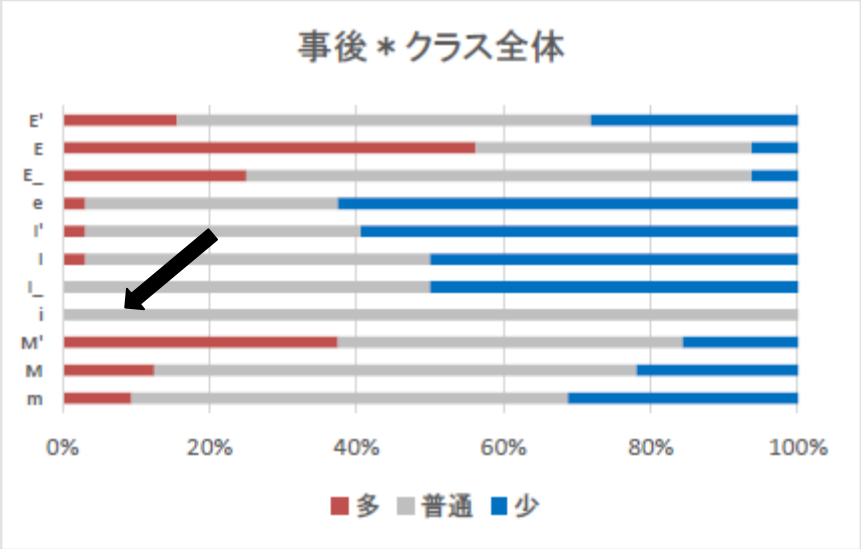

生活満足感
教師サポー
友人サポー
向社会的ス
非侵害的関
学習的適応
0%
20%
40%
60%
80%
100%
生活満足
向上
維持
友人サポート
やや向上
維持
維持
学習
適応
低下

PFスタディ:ストレス発散方法の変化



1表現:他罰で物にあたるが多い

2問題解決:自分で背負い込む子どもが多い



1表現:「物にあたる」が減少し、「言いたい相手に表現」が増加

2問題解決:「人の責任」と「自分の責任」を分けて、解決する児童が増加

2） 学校・組織における見立て力の研修

2　学校・組織の見立て

組織等		小項目	○	具体的な内容
組織・システム（人的・物理的配置）	教務部	カリキュラム立案・運営		指導要領の要点を抑えた、カリキュラム運営になっているか
				特別活動、学級活動で実情に応じた運用ができるようになっているか（SST導入等）
	教務部 生徒指導部	授業改善・研究		生徒の思考力、学力を向上する授業構築のシステム
				授業改善研修システムができているか
				アクティブラーニング、ICT等が活用されているか
		学習権利の保障		不登校、指導中等の学習の権利の保証ができているか、自宅学習、ICT活用等
		授業崩壊対応		授業が成立していない場合の教員研修、支援制度ができているか
		成績評価		成績評価用のルーブリックが作成されているか、
				成績に対する問い合わせに答えるシステムがあるか
		単位認定		不登校、いじめ等で授業に出られない場合の成績、単位認定制度ができているか
		進級認定		不登校で学力が不足している場合の認定制度ができているか
		処分認定		問題行動に対する処分決定に対する、基準、処分後の対応についての制度ができているか
				懲戒処分時の決定プロセスと指導プロセスが明文化されているか
		行動規範の立案・運用		生徒指導に関わる行動規範を立案し、生徒・保護者に広報しているか
	生徒指導部	外部組織との連携		警察、児童相談所、鑑別所等との日常的な連携ができているか
		生徒指導力の研修		見立て、相談、生徒指導時の専門的な面談力の研修が行われているか
		いじめ対応		早期発見のシステム（アセスメント・スクリーニング）が構築されているか
				いじめアンケートが適切に理解され、早期対応がなされているか
				いじめ予防のための相談体制が構築されているか
				いじめ予防のための教育プログラムが組まれているか
				いじめの加害者、被害者、観衆、傍観者それぞれに対する心理教育プログラムが実践されているか
		暴力対応		危険物の管理が組織的にできているか（機械、器具、化学用品、工作道具等）
				暴力が発生した際の対応組織が構築されているか
		サイバー対応		ネット、ツイッター、LINE等での人権侵害行為の取り締まり組織があるか
		非行対応		非行予防のための心理教育が行われているか（何が犯罪になるかの理解）
				非行傾向のスクリーニングが行われているか（日常の行動観察、記録等）
				非行が発生した段階での、対応組織が構築されているか
		虐待対応		早期発見のシステムができているか（児童虐待防止法の理解、発見マニュアルの研修）
				早期対応の組織ができているか（家庭との連絡、児童相談所との連携、児童の保護等）
				被虐待児の二次障害による学内不適応行動への対応組織ができているか
				養護施設職員との連携ができているか
		命に関わる事件・事故対応		校内に安全管理のシステムがあって、点検されているか。
				事件・事故時の対応マニュアルがあるか
				事故後の緊急対応のシステムができているか（教育委員会、警察、医療との連携）

組織等		小項目	○	具体的な内容
組織・システム（人的・物理的配置）	教育相談部	特別支援委員会		就学相談・進学時の幼・保、・小・中との情報の共有ができているか
				実態把握をするシステムがあるか
				個別の指導計画を作成・活用しているか
				合理的配慮など必要な研修をするシステムがあるか
		不登校対策		早期発見のためのシステムができているか（アセスメント、スクリーニング）
				早期対応のためのシステムができているか（包括的アセスメントとIEP立案）
				教育センター等との連携システムができているか（適応指導教室、メンタルフレンド派遣等）
				再登校時の段階別対応システムができているか（別時間・別室登校、学級登校、完全登校等）
				学級担任の支援システムができているか
	進路指導部	就学相談		小学校入学時の健康診断における行動観察、就学相談が適切に行われているか
				幼稚園・保育園からの情報が共有されているか
				就学委員会、学校において適切な就学における情報交換と判断がなされているか
		進路相談		中学進学時に小学校からの情報が共有されているか（特別支援、いじめ、不登校、虐待等）
				適切な進学先を判断できているか（保護者、本人との信頼関係の構築）
	保健体育部	身体の健康の維持		怪我の予防、熱中症、感染症等の予防のシステム構築ができているか
				緊急時の保護者への連絡手段が確保できているか（病院、迎え、報告等）
				養護教諭不在のときの対応ができているか（人員補充、連絡手段の確保等）
				応急処置ができる教員チームが育成されているか（AED, 止血、アレルギー、意識障害対応等）
		心の健康の維持		保健室登校、カウンセラーとの連携、保護者対応等の組織的連携ができているか
				守秘義務に関する教員の倫理、意志疎通ができているか
				ハラスメント予防研修が行われているか（教職員によるアカハラ、セクハラ予防）
		その他		
リーダーシップ	校長	最新の知識の習得		教育制度、政策、法律、情報機器等、教育に関する最新の知識を理解しているか
		方針の決定		運営方針が学校の実情・生徒の実情に合っているか、
				運営方針には教員の意志を反映しているか
		意思疎通		情報が校長に伝わりやすいシステムになっているか
				児童生徒とのコミュニケーションが行われているか、情報を把握できているか
				保護者とのコミュニケーションが行われているか
		信頼関係		教職員からの信頼があるか、児童生徒からの信頼があるか、保護者からの信頼があるか
		その他		
仲間づくり	全職員	情報の共有		職員会議、情報伝達手段が迅速で的確であるか
		会議の運営		必要な会議が効率よく行われるシステム（空き時間・会議場所の確保、会議資料の効率化等）
		意思疎通		意見が言いやすい環境、人間関係になっているか（縦割りで、途中で意見が止まらないか）
		役割・責任		自分の役割、責任が行動レベルで明確になっているか
		人権の尊重		いじめ・ハラスメントがないか、
		私生活との両立		家庭、仕事以外の生活時間が確保されているか

校内のシステム作りの研修

校内のシステム作り（記入例）

	Ⅰ学内での準備 1　環境整備（教室、教材の確保等） 2　資料整備（情報収集の手段、運用手順の決定、集約した情報の周知方法		Ⅱ 運用のためのシステム （報告先、連携先、相談先）			Ⅲ 対応プログラム
	既にあるもの	これから作成・整備が必要な資料・設備	校内体制	連携者	校外体制	学内
不登校	1　環境整備 保健室 ＳＣ（週１回） ＳＳＷ（必要に応じて）	学習支援室 1）放課後学習の部屋指導員 2）授業中の支援室 3）別室登校用の部屋指導員	コアチーム：（全ての情報を管理） 教育相談担当、特別支援コーディネータ ＳＣ，ＳＳＷ 実働チーム：（担当生徒への対応）	管理職	1　教育相談室相談員 心理査定員 2　教育委員会 （不登校対応？） 3　就学相談担当 4　特別支援	学業不振対応
						特別支援対応
	2　資料整備 1）奈良県不登校対応マニュアル	1）対応モデルの各段階で使う資料 ①スクリーニングシート ②　聞き取りシート ③　連携機関への報告書 連携機関への情報提供依頼書	コアチーム： 担任、学年主任、養護教諭、ＳＣ 実働チーム： 担任：情報管理、復帰計画立案 教科担当：学力維持、教材作成 ＳＣ／養護教諭：社会性トレーニング	管理職	1　適応指導教室・指導員 2　メンタルフレンド（児相・教育委員会） 3　医療：校医 主治医 4　民営の相談室、カウンセラー	いじめ被害対応
						非行対応
						虐待・家庭問題対応

奈良文化高校のシステム構築例